

「香川県遠隔医療ネットワーク「K-MIX」(香川県)

課題（状況）



- ・離島やへき地の高齢者世帯や住民への適切な医療・福祉の提供が必要
- ・乳児・周産期死亡率も非常に高く、島嶼部の妊娠婦の管理のための周産期医療のネットワークシステムの構築が必要

目標（数値）



- 周産期医療のため香川大学を中心開発した遠隔診断システムの取組を生かし、県単独予算で遠隔画像診断を支援するK-MIXの運用開始
- ・K-MIXのノウハウを活用、遠隔医療システムを活用した効率的な医療の実現

具体的取組

- ①・香川医科大学（現香川大学）で画像系の遠隔診断のネットワーク化に取組む（H10）
- ・「四国4県電子カルテネットワーク連携プロジェクト（経済産業省 H12）の取組む
- ・香川県医師会の事業参画等全県的な取組として「かがわ遠隔医療ネットワーク」開発
- ・K-MIXのノウハウを活用し、「電子カルテ機能統合型テレビ会議システム」の開発
- ・K-MIXと中核医療機関との連携する電子カルテネットワークの構築（患者情報共有）
- ③K-MIX導入費用（県単独）3,003万円
- ⑥・開発後収支見通しを判断の上、医師会事業として取り組んだこと
- ・低廉な利用料金の設定（参加医療機関）
- ・県医師会、大学、開発業者、県による月例会の開催による改善策の検討、情報共有

・規制緩和で遠隔診療は可能となったが、遠隔診断の方法や診療報酬の適正な算定等が依然として課題
規制・環境変化

・特別な医療知識を持つ看護師（オリーブナース）を育成、この看護師と医師の連携で遠隔医療を推進（特区として実施）
解決

香川県プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源
人材

支援政策
協力者

产学連携
技術

・香川大学原教授を中心とした人的ネットワーク

香川大学
電子カルテ
事業など

・事業運営主体として香川県がシステムを譲渡した香川県医師会、事業に参加した医療機関、システム運用/運営サポートの（株）STNe

成果（数値）

- センター方式を導入、双方向でのアクセスと安定的・低廉な価格でのシステム利用を実現
- ・画像等患者情報の共有による早期診断等迅速・正確な医療を実現
 - ・K-MIXを活用したかかりつけ医・専門医の連携など医療資源の有効活用による遠隔・在宅医療の充実

地域の変化

- ・患者のために開発システムであるが、ドクター間の利用により連携・コミュニケーションが向上
- ・離島・へき地では専門医のバックアップ体制もでき住民は安心した暮らしが可能

残る課題

- ・K-MIXを基盤に医師だけでなく看護師・薬剤師などの医療人財をネットワークした先進的な遠隔・在宅診療の実現
- ・患者の治療向上のため、中核病院等の電子カルテとの連携による患者情報の共有
- ・遠隔医療の更なる向上のための医師法等の問題点の解消による遠隔医療の充実

次の行動

- ・中核医療機関の電子カルテを結ぶ患者情報共有システムの構築（K-MIX+の実現）
- ・高齢者・在宅患者のための遠隔医療の普及を目指す診療報酬の明確化を実現する事業への取組み